20th Anniversary
平成27年は、開館20周年。

石川県七尾美術館だより

平成27年４月１日発行
編集・発行（公財）七尾美術財団

第81号（春号）

ISHIKAWA
NANAO
ART MUSEUM

開館20周年・北陸新幹線金沢開業・
能越自動車道七尾氷見道路開通記念特別展

長谷川等伯展
～日本障壁画の最高傑作「楓図」公開～

国宝「楓図壁貼付」（部分）
長谷川等伯筆　文禄元年（1952）頃
京都市・智積院蔵

展覧会紹介

平成27年4月18日（土）～6月28日（日）

休館日については裏表紙をご覧ください

開館20周年・北陸新幹線金沢開業・能越自動車道七尾氷見道路開通記念特別展

「長谷川等伯展 ～日本障壁画の最高傑作『楓図』公開～」

4月18日（土）～5月10日（日）

【会期中無休】

◇第1・第2・第3展示室

20回目を迎える「長谷川等伯展」

平成7年4月に開館した当館は、おかげさまをもちまして、本年で開館20周年を迎えることとなりました。行政はもとより、美術関係団体、ボランティアをはじめ多くの皆様のご指導・ご協力の賜物と、改めて心より御礼申し上げます。

開館して20年、「能登ゆかりの美術工芸」を主要テーマに位置付けている当館では、これまで数多くの作家や作品を紹介してきました。その中で代表格といえば、やはり長谷川等伯（1539～1610）でしょう。桃山時代に大活躍した絵師・等伯は、もはや生誕地の七尾のみならず、全国レベルの「スーパースター」といえます。従って、当館にとっても重要テーマであり、開館翌年の平成8年より「長谷川等伯展」を開催、これまで等伯やその一門「長谷川派」絵師の作品や史料を、数多く紹介してきました。

長谷川等伯　京都市・智積院蔵

「十二天図」（風天）
長谷川信春（等伯）
羽咋市・正覚院蔵

その展覧会も、いよいよ今回で「20回目」。しかも今年は、北陸新幹線の金沢開業、そして能越自動車道の七尾氷見道路全線開通という、七尾市にとって重要な年でもあります。

そこで本展ではその記念として、「長谷川等伯金碧画の代表作」「桃山黄金文化の象徴」として広く知られている至高の名作、京都・智積院が所蔵する国宝「楓図壁貼付」を特別展示。さらに、等伯若年期から晩年期に至る彩色画や水墨画、そして「長谷川派」作品などを加え、重要文化財5件を含むあわせて27点を紹介いたします。

近世のはじまりに花開いた、「桃山」という時代の「息吹」を現在に余すところなく伝えてくれる日本障壁画屈指の名品を、この春にぜひ生誕地・七尾でご鑑賞いただきたいと思います。

「日乗上人像」長谷川信春（等伯）
羽咋市・妙成寺蔵

なお、今回の展示は次の3部構成となります。ここからは、各テーマの内容をみていきましょう。（文中掲載の作品は本展出品作）

テーマ1《黎明―絵師・等伯誕生》

等伯は当初、能登国の大名・能登畠山氏に仕える七尾の武士・奥村家に生まれ、間もなく長谷川家の養子となったと伝わります。長谷川家は七尾城下で染物屋を営む一方、養父の宗清（1507～71）や養祖父とされる無分（生没年不詳）は、優れた腕を持つ絵仏師だったようです。

彼らの薫陶を受け、早くから絵師としての才能を開花させたのでしょう、20歳半ば頃には「信春」を名乗る一人前の絵師として、仏画や肖像画などを描いていました。

それらの仏画は無分・宗清の様式を忠実に受け継ぐものです。その例として「涅槃図」は、無分筆の七尾市・長壽寺本と、等伯筆の羽咋市・妙成寺本はほとんど同じ構図ですし、等伯最初期、20歳代前半頃の作品といわれる「日乗上人像」（羽咋市・妙成寺蔵）は、宗清筆の「日蓮聖人像」（輪島市・成隆寺蔵）の影響が濃厚です。

つまり能登時代の等伯は、いわば「絵仏師・長谷川家を受け継ぐ者」だったといえるでしょう。

本テーマでは等伯若年期、能登時代の仏画を中心に、宗清や無分の作品なども加えて、絵師・等伯のあけぼのを紹介します。

「十六羅漢図」
（出品３幅の内１幅）
長谷川信春（等伯）
七尾市・霊泉寺蔵

テーマ2《可憐―「楓図」と花鳥画》

若年期は絵仏師であったといわれる等伯です

国宝「楓図壁貼付」

が、どうやら早くから花鳥画なども手掛けていたようです。「海棠に雀図」（個人蔵）や「恵比須大黒・花鳥図」（京都国立博物館蔵）は、能登時代を含む若年期の制作といわれ、画面には等伯得意の細密描写が駆使されています。

やがて、金碧画など様々なレパートリーを習得し、活躍の場をさらに拡大。50歳代に「等伯」と名乗って間もない頃の制作といわれる「四季花鳥図屏風」（個人蔵）は、大画面に大和絵風の柔らかな描写で、四季の草花を叙情性豊かに表現しています。

そして「楓図壁貼付」（京都市・智積院蔵）。54歳頃制作の本図は、等伯率いる「長谷川派」一門が総力を結集して制作した、京都・祥雲寺の障壁画群の一場面です。金地に当時流行の「大画面様式」で描かれた楓の巨木は迫力抜群ですが、周りに散りばめられた様々な草花によって、画面はむしろ静寂に満ち、やさしささえ感じさせます。その辺りに「狩野派」とは異なる「等伯花鳥画」の真骨頂が発揮されているのではないでしょうか。

重文「桜・鉾杉図襖」（部分） 長谷川派 京都市・妙蓮寺蔵

本テーマでは、「楓図壁貼付」を中心に等伯の花鳥画と、斬新な意匠が印象的な「長谷川派」による金碧画の傑作「桜・鉾杉図襖」（京都市・妙蓮寺蔵）を紹介します。

テーマ3《幽玄―水墨の境地》

多彩な作品を描いた等伯。無論水墨画でも、その才能を存分に発揮しています。等伯がいつ頃から水墨画を始めたかははっきりしていませんが、京都移住後の30歳代後半頃には本格的に手掛けていたようです。40歳前後の制作といわれる「達磨図」（七尾市・龍門寺蔵）は、その強靭な精神性まで写し取った「信春時代」水墨画の傑作としてよく知られています。

また、等伯の場合、後年ほど水墨画が増加する傾向があります。水墨の方が性に合っていたのでしょうか。従って、51歳制作の「山水図襖」（京都市・圓徳院蔵）以降、「等伯時代」の50～60歳代に多くの作品が描かれています。特徴的なのは、最初は柔らかく湿潤な表現を専らとし、60歳頃を境に激しい筆使いによる硬質な表現に転じていくところ。老齢となってもなお、画技を追求したのかもしれません。

重文「山水図襖」（部分） 長谷川等伯 京都市・隣華院蔵

本テーマでは、「信春時代」より60歳頃までの水墨画に注目。水墨画学習期とされる30歳頃制作の作品から、様々な試行錯誤を経て61歳に「等伯水墨画のひとつの到達点」といわれる「山水図襖」（京都市・隣華院蔵）を描くまでの主な作品を紹介します。

《関連事業》

①友の会会員限定講座「先取り！等伯展」

日　時：4月17日（金）　午後4時～
定　員：20名（先着）
参加費：500円（飲み物・お菓子付）
※4月4日（土）午前9時より電話申込受付開始。
七尾美術館　☎0767（53）1500
☆当館学芸員の案内で、一足先に等伯を体感。
☆最初にティールームにて歓談の後、展覧会を鑑賞します。

②記念講演会（聴講無料）

日　時：4月29日（水・祝）　午後2時～
会　場：当館アートホール
講　師：脇坂 淳 氏（京都教育大学名誉教授）
演　題：「等伯の障屏画について」
☆記念講演会ご聴講の方全員に、等伯関連絵ハガキ1枚をプレゼントします。

③等伯子どもなんでもクイズ（参加無料）

対　象：小中学生
日　時：「長谷川等伯展」会期中開館時間内随時
会　場：当館展示室
☆毎年恒例の子どもクイズ。全問正解された方の中から抽選で、等伯グッズをプレゼントします。

◇観覧料

	個人	団体
一般	800円	700円
大高生	350円	300円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

「女性美称賛
～浮世絵から現代作品まで～」

「ジャズの世界をめぐる モントレー・ジャズ・フェスティバル・ポスター展」

5月16日（土）～31日（日）

◇第1展示室

「女性美称賛～浮世絵から現代作品まで～」

古来より女性の美しさは、人々を魅了し続けてきました。そして、美術界でも永遠のテーマとして、魅力ある作品が生み出されていきました。それらは、色々な顔の表情、ふくよかな体や引き締まった体の曲線、優美な着物を纏った姿、さらには人物の内面まで写し取った作品など様々です。本展では当館所蔵品から〝女性美〟に焦点をあて、絵画を中心に約20点を紹介します。

「納涼美人図」宮川長春（1682～1752）

（池田コレクション）

宮川長春は江戸時代の浮世絵師で、宮川派の祖。

本図は柳の下で縁台に腰掛けて文を読む遊女と、団扇を手にして立つ禿を描いた作品です。涼む遊女の胸元は大きくはだけ、色香漂う作品です。

「農婦」八野田博（1921～93）

八野田博は石川県出身の洋画家で、特に女性美を追求しました。農作業の合間でしょうか、ワラにもたれてひと休みする女性。働く女性も魅力的ですが、作者はふっと力の抜けた自然体の姿を選び、優しい眼差しで描きました。

「風渡る」百々俊雅（1939～）

百々俊雅は大阪市出身の日本画家。夏の日曜日、大阪中之島公園付近のビル屋上から俯瞰して描いた作品です。川沿いにずらりと並ぶカップルたち。背景の赤は、夏の暑さを表わしていますが、メインの女性は涼しげな花柄のワンピースに白いレースのカーディガンを羽織り、長い髪は風になびいて、暑さの中にも清々しさがあります。

「セレナーデ（Ⅱ）」中村静勇（1942～2011）

中村静勇は七尾市出身の洋画家。静けさを感じる海岸には、異次元に通じるような扉が現れ、扉を開けて新たな世界へ向かう意識の象徴のように、1羽の蝶が描かれています。うずくまる裸婦の肌は、気品漂うユリの花と同化して白く輝き、荒涼とした背景に一際光彩を放っています。

◇第2展示室

「ジャズの世界をめぐる モントレー・ジャズ・フェスティバル・ポスター展」

七尾市の姉妹都市であるアメリカ・カリフォルニア州モントレー市は、世界3大ジャズフェスティバルの1つである「モントレー・ジャズ・フェスティバル（MJF）」の開催地として有名です。

そのモントレー市と七尾市和倉温泉観光協会が、ジャズを通しての友好を目的として、1989年に「モントレー・ジャズ・フェスティバル イン 能登」をスタートさせました。以後もジャズを通しての交流を盛んに行い、その一環として1996年に七尾市・和倉温泉観光協会・和倉温泉旅館協同組合に対しMJFポスター50枚が寄附されました。

このポスターは、1963年から95年までの間にアメリカの作家EARL NEWMAN氏が、著名なジャズ・プレイヤーの演奏する姿やトランペットなどをモチーフに、リトグラフの技法で制作したものです。

ジャズの本場ならではの、躍動的でリズム感あふれる表現で描かれたポスターの数々を展示・紹介します。

「1963年　Joe Gordon」

◇共通観覧料

	個人	団体
一般	350円	280円
大高生	280円	220円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

「第71回現代美術展　七尾展」

6月5日（金）～28日（日）

◇第1・第2・第3展示室

終戦後の石川県では地元の作家が中心となり、昭和20年10月11日に石川県美術文化協会を設立、翌12日に開館した石川県美術館を会場に「第1回現代美術展」が開催されました。

「現代美術展」は、主に県内の作家や美術愛好家たちが出品する公募展で、今回で71回目を迎えます。

当初、日本画・洋画・彫刻・工芸の4部門でスタートした「現代美術展」ですが、昭和30年代に入ってから書、写真と2部門が相次いで加わりました。現在は6部門で構成されており、その規模は公募展として県下最大を誇り、所属会派を超えて作品が出品されることから、石川県における美術の現在を知る、絶好の機会となっています。

その歴史や規模だけでなく、昨年は県内在住及び出身である、人間国宝9名・日本芸術院会員4名の作品が出品されたことからも、その内容の充実度が測れます。

今年は3月28日（土）から4月14日（火）まで、石川県立美術館（日本画・彫刻・書）と金沢21世紀美術館（洋画・工芸・写真）の2会場で開催されます。展示作品は委嘱出品と一般公募から構成されており、委嘱出品の部では、出品委嘱作家（石川県美術文化協会会員）の作品が展示されます。一方、一般出品の部は、入選率5割という厳しい審査を経て選ばれた作品を展示するもので、展示の総点数は千点にもおよびます。

金沢展の後、県内の4会場を巡回しますが、巡回展は開催地ごとに地域の文化や産業をも反映した地域色豊かな展示内容となります。

当館では平成7年の開館以来、毎年6月に「現代美術展　七尾展」を開催しており、今年で21回目を数えます。「第71回現代美術展」出品作品の中から、石川県美術文化協会役員の作品、能登地区在住および出身委嘱作家作品、委嘱賞・最高賞・次賞受賞作品（能登地区各市長賞と能登地区ゆかりの作家のみ）、能登地区在住者の作品を選抜し、250点弱の作品を紹介します。

会期中、第3展示室の1室では「池田コレクション」を展示します。観覧料は「現代美術展」と共通料金です。

※ここでの能登地区とは宝達志水町以北をさします。

◇観覧料

	個人	団体
一般	500円	400円
大高生	350円	300円

※中学生以下無料・団体は20名以上です。

昨年の展示室の様子

アートホール貸館催し物案内

エンヤでか山モニターツアー

無入場料

5月4日（月・祝）開演　午後1時30分

楽しい〝でか山〟の合間、七尾との交流を希望する県外からの人たちと共に、ふるさとのヒーロー長谷川等伯を讃えませんか？語り芝居、創作民謡、合唱、バンド演奏がお待ちしております。

主　催　七尾エンヤワッショイ街巡り実行委員会

連絡先　事務局　春木 憲☎090-1396-8119

中能登奏友会アンサンブルコンサートin2015春

無入場料

5月17日（日）開演　午前9時00分

低音金音管楽器のユーフォニアム・テューバによる演奏会です。春の日差しのような暖かいサウンドをお届けします。また当日は県内外で活躍されているピアノ・サクソフォンアンサンブルの方々のゲスト出演もあります。ご期待ください。

主　催　中能登奏友会

連絡先　荒川裕介　☎090-3768-5608

第33回青柏民謡発表会〝温習会〟

無入場料

6月21日（日）開演　午後12時00分

芸能文化である民謡の伝承・発掘し、地域文化向上を目的として、会員の日頃の練習成果を発表します。唄と踊り盛り沢山です。どうぞ、皆様お誘い合せご来場ください。

主　催　青柏民謡会

連絡先　中西清一　☎0767（62）3178

第188回例会　サロンコンサートによる「オーケストラ探索コンサート」

限定会員

6月28日（日）開演　午後7時00分

笑いながら聴ける？？気取らないスタイル♪からだ中で楽しめるコンサート。音楽が苦手！という子どもも大人も音楽が大好きになってしまう感動と笑いのコンサートです♪

主　催　七尾子ども劇場

連絡先　打越　☎090-2831-9259

平成27年度 友の会 行事カレンダー

2015 4月

4月1日（水） ◆「美術館だより81号（春号）」発行

4月17日（金） ◆「長谷川等伯展」開会式　無料ご招待
式典終了後には展覧会の鑑賞もできます。

◆友の会会員限定講座「先取り！等伯展」
開会式終了後に、茶話会と展示室での作品鑑賞会を行います。
参加申し込み方法 4月4日（土）より電話にて受付開始。
※詳細は本だよりP.3をご覧ください。

7月

7月1日（水） ◆「美術館だより82号（夏号）」発行

7月16日（木） ◆「第16回友の会鑑賞の旅」開催
※詳細は同ページ下方をご覧ください。

8月

8月9日（日） ◆「池田コレクション鑑賞会～やきものの魅力を知る～」
講師に、元石川県立美術館学芸課長 南俊英氏をお招きし、
池田コレクションのやきものの魅力を学びます。

10月

10月1日（木） ◆「美術館だより83号（秋号）」発行

◆「開館20周年記念オリジナルグッズ」プレゼント
手に入れるチャンスは今回のみ!!会員限定の等伯グッズです。

11月

11月6日（土） ◆「2015イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」開会式　無料ご招待
式典終了後には展覧会の鑑賞もできます。

2016 1月

1月1日（金） ◆「美術館だより84号（冬号）」発行

第16回石川県七尾美術館友の会「鑑賞の旅」のご案内

MIHOミュージアムと彦根城を訪ねて

参加者大募集！

江戸時代に活躍した天才絵師、伊藤若冲と与謝蕪村が生誕300年を迎えます。それを記念し今夏、MIHOミュージアムで展覧会「生誕三百年 同い年の天才絵師 若冲と蕪村」が開催されます。美しい緑に囲まれた信楽の山中にある美術館は、日本美術だけでなく古代世界の遺宝も数多く所蔵しています。ぜひこの機会にご一緒しませんか。

また、彦根城は、井伊直政の子直継・直孝が慶長９年（1604）築城に着手し、約20年の歳月を経て完成しました。天秤櫓や太鼓門櫓など多くの重要文化財が現存し、国宝の天守閣から望む琵琶湖の景色は時代を経ても素晴らしいものです。彦根は江戸時代を通じ徳川幕府の重責を担う城下町として栄え、当時の面影を残す古い町並みは今も賑わいがあります。皆様からのお申し込みをお待ちしております。

- ◆ 日　程　7月16日（木）【貸切バス利用】６：00出発　22：00頃帰着予定
- ◆ 見学地　MIHOミュージアム・彦根城（滋賀県）
- ◆ 参加費　１４，０００円（税込み）
- ◆ 定　員　先着25名（対象は原則として成人）
- ◆ 募　集　4月4日(土)から

※バス代・観覧料・昼食代・旅行傷害保険料込。
※友の会会員以外の方は左記参加費に1,000円加算となります。

※参加費をご持参のうえ、当館受付までお越しください。　※定員になり次第締め切らせていただきます。

伊藤若冲筆「象と鯨図屏風」≪紙本墨画　六曲一双　江戸時代　寛政9年（1797）　各縦159.4×横354.0≫　MIHO MUSEUM蔵

石川県七尾美術館の開館二十周年を迎えて

七尾市長　不嶋　豊和

故池田文夫氏（昭和59年七尾市名誉市民に推挙）の蒐集美術品125点の寄贈により、市民の間に美術館建設の気運が高まったのが、今から27年前の昭和63年5月のことでした。翌年5月の美術館建設準備委員会発足は、市民の熱意によるものと言っても過言ではないと思います。

その後、建設委員会への改組、美術館企画運営委員会の発足を経て、県の協力のもと平成6年7月に美術館が完成。同年10月に石川県立美術館館長である嶋崎丞氏を館長にお招きし、名実ともに石川県七尾美術館が誕生いたしました。

眼下に七尾湾を望み、緑豊かな丘陵地に建てられた美術館は市民の憩いの場となっており、また、館内には講演会やコンサート等に使用できるアートホールや多くの方々の作品発表の場となるギャラリーを備えております。

この美術館が開館当初から取り組んでいる展覧会に「池田コレクション展」と「長谷川等伯展」があります。

池田氏の多岐にわたるコレクションは、氏の造詣の深さを感じさせ、そして、七尾に生まれた桃山時代の画聖等伯は、「等伯展」により、市民に身近でありながら、その偉大さを感じさせてくれます。

毎年の開催は無謀であると思われた「等伯展」が、七尾美術館の熱意により今日まで続いていることは、私たちの誇りであります。

素晴らしい美術品に接する機会を市民に提供し、芸術文化の拠点となる美術館を目指した開館以来、20周年を迎えた現在もその役割を担っており、今後もその真摯な姿勢は変わるものではないと信じております。

開館二十周年を迎えるに当たって

石川県七尾美術館長　嶋崎　丞

当館が平成7年に開館してから、本年で開館20周年を迎えることになりました。20年の月日は長いようで、あっという間の20年であったように思います。

昭和50年代のいわゆるバブルの時代に入って、日本各地に美術館の建設がはじまると、能登地区の中核都市七尾市にも美術館が欲しいという運動が興りました。いうまでもなく美術館である以上、優れたコレクションを持つことが必須条件ですが、幸いにも七尾市出身の経済人で美術品の蒐集家であった池田文夫氏のご遺族から、美術館が建設されるなら役立てて欲しいと寄附の申し出があり、このことが美術館建設に拍車をかけました。

美術館施設は全面的な石川県の助成により建設されて、市民、県民の皆様方のご援助ご協力により、今日の姿に成長してきました。

とくに展示活動の中心に据えて参りました長谷川等伯展は、学芸員の皆さん方の大変な努力の積み重ねにより、およそ七尾で公開が不可能と考えられていた作品を含めて、等伯作品のおよそ80パーセントは展示ができたのではないかと思っています。未公開の作品については、今後公開すべく大いに努力して参りたいと思っています。

本年は当館が開館して20周年、等伯展を開催して20回目の節目の年に当たり、また北陸新幹線金沢開業、能越自動車道七尾氷見道路開通等それらを記念して、等伯の最高傑作国宝「楓図」を中心とする27点の名作を公開展示します。本年の長谷川等伯展は、等伯を指導育成した養祖父、養父の作品や、等伯の能登在住時代から京都へ出て大成し、晩年に至るまでの各時代を代表する作品などで構成した極めて豪華な内容になっています。

とくにご存知の方が多いと思いますが「楓図」は、七尾市役所正面玄関入ってすぐの吹抜け部分の壁面に、陶板復元されており、その実物が今回やってきます。またJR七尾線に、この「楓図」がラッピングされた電車が走っており、目にされている方も多いと思います。

実はこの国宝「楓図」は、開館5周年の平成11年に1度当館で展示されており、今回は2度目になります。当時は残念ながら七尾の地域においても、今日程等伯に関心を持つ方が多くなかったように思います。当時の入館者数を見てみると30日間で12,500人と、正直いって私共は少々落胆しました。この機会に最高の名作をもう1度見直し、作品の前に立って大いに感動して頂ければ幸いです。

平成7年4月28日（金）　開館記念式典の様子

平成11年「国宝楓図を中心に」展　会場風景

これからの展覧会予定

《第１期》平成27年７月４日（土）～８月２日（日）
《第２期》平成27年８月８日（土）～９月13日（日）

◆第１・２展示室　開館20周年記念展

「新寄附作品初公開!―池田コレクションの名品」

「池田コレクション」は、七尾市出身で岐阜県大垣市を拠点に活躍した実業家・池田文夫氏（1907～87）が蒐集した美術工芸品。岐阜県ゆかりの茶陶をはじめとした幅広い作品によって構成される、日本情緒豊かなコレクションです。池田氏の没後、七尾市に最初の寄附が行われ当館開館のきっかけとなり、その後現在に至る20年間にわたって所蔵品の「顔」として重きをなしてきました。

その「池田コレクション」に今回、開館20周年を記念して新しい仲間が加わりました。池田氏ご遺族のご厚意により追加ご寄附いただいた新たな作品は、九谷や唐津といったやきものや近現代作家による工芸作品、そして絵画などをあわせた83点。「池田コレクション」はこれで合計287点となり、さらに充実のラインナップとなりました。

そこで本展では、新寄附作品を一挙に初公開。会期を２期に分け、従来の「池田コレクション」からも一部の作品を加えるかたちで、それぞれ珠玉の名品を紹介いたします。

いずれも得難い貴重な品々を、ぜひこの機会にご鑑賞ください。

「元明清大家臨写画帖」（部分）
中林竹洞

「色絵金襴手角皿　小野窯」

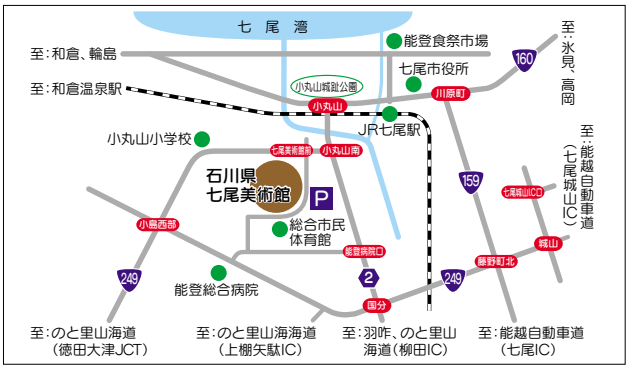
「信楽水指　銘腹鼓」

「三島本地絵巻」（部分）土佐光起

※掲載作品は全て新寄附の「池田コレクション」です。

割引、プレゼントなど特典いろいろ！
ぜひ当館でもご利用ください。

エントランスホール及びティールームにて、Wi-Fi スポットサービスの「FREESPOT」をご利用頂けます。



飛行機……のと里山空港から「のと里山海道」利用約45分
車……「のと里山海道」徳田大津JCT又は「能越自動車道」七尾城山ICより約15分
タクシー…JR七尾駅から約５分　　徒歩……JR七尾駅から約20分
市内循環バス「まりん号」（１時間に２便　約10～15分）
…JR七尾駅前「ミナ. クル」ビル裏バス停から等伯ルート（西回り）「七尾美術館前」下車
ななおコミュニティバス「ぐるっと７」（１日４便　約10分）
…JR七尾駅５番乗り場から西コース「小丸山台１丁目」下車

◆４月～６月カレンダー◆　※■は休館日
◆開館時間◆　午前９時～午後５時
（入館は午後４時30分まで）

2015 4 APRIL

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30		

5 MAY

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

6 JUNE

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30				

◎次号・第82号（夏号）は７月１日発行予定です。

〒926-0855　石川県七尾市小丸山台一丁目１番地
TEL(0767)53-1500 ／ FAX(0767)53-6262
http://nanao-art-museum.jp